



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

初めての中東駐在の任地としてドバイに降り立ったのが2020年7月。以前マレーシア稲門会に所属していた時期もあり、当たり前のように当地でも稲門会に入会しようとしたところ、何とドバイには三田会はあるものの、稲門会は存在しないことを知らされ、がくぜんとしたことを思い出します。そこで、校友の在ドバイ日本総領事他、数人の方々に発起人になっていただいた上で、地場の日本人会機関誌に募集案内を掲載したところ、在留邦人3,000人余りの

中、あっという間に60人もの会員が集まりました。現在は設立3年目を迎え、定期的な会合や他大学とのゴルフ対抗戦など、活動範囲を徐々に広げつつあります。

2022年は日本とUAEが外交関係を樹立して50周年の記念すべき節目の年でした。ドバイ稲門会も今後さまざまな活動を通じて、両国の交流促進に少しでも貢献できるよう、微力ながら取り組んでまいりたいと思います。

太田健司(1986年法学)

会員からのメッセージ

当会も、各国の例に漏れずゴルフが主要な活動の一つで、昨年から年2回早慶戦を行っています。昨年の春は僅差で三田会に軍配が上がり、秋は当会がグロスもネットもぶっちぎりで勝利し、その圧倒的なゴルフの実力を見せつけました。UAEは連邦結成51年の若い国で、当会もまだ設立3年目ですが、ゴルフを含めて稲門会がドバイで、今後50年の歴史を紡ぐ活動を活発にしていくことを期待しています。

関口 昇(1991年政経)

たいと思います。

島田康司(2006年法学)

神秘的でゴージャスな印象のドバイですが、冬の涼しい時期は毎週のようにマラソンや水泳、トライアスロンのレースが開催されています。年齢性別を問わず多くの人が参加できる環境が整っているのもドバイの魅力です。在住3年ほどですが、私も早稲田の水泳部で培った体力を生かし、進取の精神よろしく、現地のスポーツクラブに所属しています。いろいろな国の人たちとレースに参加して、ドバイの魅力を心ゆくまで楽しんでいます。

大島 京(2013年社会学)

豪華絢爛^{けんらん}を形容する街として有名なドバイ。海岸沿いに立ち並ぶ高級ホテルとそびえ立つ高層ビル群、そしてあふれかえるほどの「世界一」がオイルマネーのすさまじさを物語っています。しかし、車を30分も走らせれば別世界。一面に広がる砂漠、車道を歩くラクダの一行に出会うこともできます。ぜひドバイにお越しいただき、意外なドバイの一面を見つけてみてください(市内から車で15～30分以内のところにゴルフ場が五つ以上あり、早慶ゴルフコンペなども盛んで、ゴルフ好きにはたまりません)。

山村 祐(2017年国際教養)

ドバイ稲門会は2020年10月設立とまだ歴史は浅いのですが、まさにUAE建国51年の足早の成長軌跡をたどるがごとく、設立わずか3年目で既に会員70人を超える勢いです。中



当会設立の発起人。総領事公邸で行われた幹部会

ドバイ稲門会について

東の拠点としてビジネス、観光などのあらゆる産業発展を反映し、会員も老若男女、実に豊かなパーソナリティーの集まりとなっています。とはいえ、まだまだ同国同様発展途上にあります。

コロナ禍の逆境でも、ドバイ稲門会設立への熱い思いで何とか当会を立ち上げてくださった発起人と賛同会員の夢が、月次懇親会、ゴルフ早慶戦などの定期開催の実現により、ようやく未来に向けて船出をしたといったところです。

ドバイがこれからも成長を続けていく中、当会も新たな伝統を積み重ね、校友がいつでも集まり参じて、心のよりどころとなる場所を目指してまいりますので、これからドバイに赴任・移住する方、はたまた「世界一」ツアーを楽しむべく砂漠のオアシスに息抜きにお越しの方も、どうか気軽に声をかけてください。

柴田浩延(1990年商学)

ドバイの魅力

日本でドバイについて報道されることも多いため、一定の印象をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。成熟した先進都市というより、まだ人口増加、土地開発、学校建設など都市の成長が進行中で、この点が私にとっての魅力です。住民は新しもの好きな傾向があり、新規ビジネスへのチャンスも豊富です。

人口のうち、月給1,000～1,500AED(約38,000～57,000円)の一部を自国へ送金する外国人たちも社会の大きな構成員です。家の掃除やナニーサービスは時間当たり20～70AED(約800～2,700円)で受けられ、働きながら子育てもしやすく、働く女性にとって暮らしやすい都市です。物価も低価格のものから高価格のものまで幅広くあります。

当地の航空会社が25年以上前から日本人乗務員を採用し、以後早大卒もところどころ採用されて今に至るようで、ワセジョが意外と活発に生活している都市でもあります。日本で採用され、ドバイベースで勤続20年近くというつわものも複数います。ドバイ稲門会の子子部も昨年

立ち上がったばかりですが、現在5人おり、今後増員を期待しています。

杉田典子(1999年商学)

(上)ヤシの形をした人工島パーム・ジュメイラ

(下)女子部も発足し、活発に活動中



2022年秋のゴルフ早慶戦は稲門会の勝利!



2度目の海外駐在は単身で、コロナ禍のこともあり、なかなか知り合いを増やすことができなかったのですが、ドバイ稲門会発足との知らせを聞き、すぐに入会しました。稲門会メンバーと年齢に関係なく、まるで馬場にいるかのように盛り上げられる機会は非常に貴重で、楽しんでいます。今年から企画部長を拝命したので、今まで以上に当会を盛り上げていき